

February 12, 1994

**Cable No. 1456, Ambassador Kuriyama to the
Foreign Minister, 'Japan-United States Summit
Meeting (Small Group Meeting) (1 of 2)'**

Citation:

"Cable No. 1456, Ambassador Kuriyama to the Foreign Minister, 'Japan-United States Summit Meeting (Small Group Meeting) (1 of 2)'" , February 12, 1994, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File No. 2014-00540. Translated by Stephen Mercado.

<https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/240306>

Summary:

Clinton and Hosokawa discuss US-Japan economic ties.

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan

Translation - English

大至急 主管課緊急処理用

極秘

総番号 [redacted]
月 12日
平成 6年 2月 13日

米 国 発
本 省 着

主 管
北米局長

外務大臣殿

栗山大使

秘密指定解除
外交記録・情報公開室

日米首のう会談（少人数会合）（2の1）

第1456号 極秘 大至急

（限定配布）

分割電報

11日、午前11時35分から午後1時10分まで日米首のう会談（少人数会合）がホワイトハウスのオーバルオフィスにて行われたところ、概要以下の通り。（先方：クリントン大統領、ゴア副大統領、レークN
SC補さ官、[redacted] NSC [redacted]、通訳（[redacted]）、当方：細川総理、本大臣、フクダ外審、マ
ツウラ外審、通訳（米ースズキ）。）

（クリスタファー 國務長官）

（総理）政権発足後半年間、高い山をのぼる連続であつた。大統領も同様の経験をされたと思う。自分の連立政権の中には、山のぼりはもうくたびれたのでトンネルの中にかくれてしまいたいというものもある。新聞のマンガでは自分がかげぶちに立つてピンチを迎えているようにえがかれている。いわば自分は「クリフハンガー」である。

大統領もNAFTA、APEC、URとトリプルプレーに成功された。自分も政治・経済・行政の三つの大改革を進めており、旧体制を維持しようとする「保旧派」と「改革派」の間のせめぎあいをやつてきた。今後も改革を断固推進していく。

政治・経済・行政改革を通じて、本物の「政治の復権」を目指してきた。建設問題、UR等、族議員や官僚のてい抗を排して、つな渡り的であつたが、それなりの成功を納めてきた。

景気対策に関して、米国は物足りないとの評価であるように聞いているが、われわれとしては相当思い切つたパッケージを作つたつもりである。これは当面の景気対策というより、税構造のばつ本的改革の一かんと位置付けて取り組んだものである。

秘密指定解除

外交記録・情報公開室

極秘

これらの改革は「内なる改革」であり、今まで外圧で日本が変化してきたと思われていることと根本的に異なる。しかしこの「内なる改革」はちよについたばかりであり、これからが本格的な取組みであるので、関心を持って見守つてほしいし、また、支援できるところは支援して欲しい。

(クリントン) 総理の行われていることを強く支持する (FEEL STRONGLY)。これは日本にみならず民主主義の例として、政界の諸国の為になるものである。外からのきょういが消めつし、関心が国内に向く時には、変革についての国民の支持を得ることが困難なことが民主主義国家にとつての問題である。自分の経験を通じて、米国と同じぐらい、日本でも変革を遂行することは困難だと思う。自分は、昨年夏、財政調整法を上下両院において一票差で通過させたが、その時は民主党は3つの異なる党から構成されているようで、投票の度に状況が異なっていた。

自分は総理の政治改革も強く支持する。われわれも米国で同様の改革に努力しており、今後4ヶ月程度の間に、議会で法案を通過させたい。

日本の景気し激策については、米国の経済アドバイザーは、十分大きなものではない (NOTO BIG ENOUGH) としているが、自分は総理が受けている圧力を理解している (I UNDERSTAND THE PRESSURE YOU ARU UNDER)。個人的には規模は相当なもの (SUBSTANTIAL) だと思うが、米国の経験に基づくと、あるいは日本の場合には事情は異なるのかも知れないが、一回限りの減税を行うと、次の年には増税が行われるとの予想の下に、かなりの部分がちよちくに回され、消費に回されない。

少人数会合で協議したいことはわれわれが世界に送るメッセージが正しいものであるということを如何にして確保するかである。貿易問題について合意に達することに失敗したが、安全保障、政治、経済面で日米両国は多くの共通の利益を有しており、何とかしてわれわれは日米関係にコミットしていることを、日米両国民及び世界に対して示す必要がある。安全保障の分野については、北朝鮮の核開発問題について話し合いたい。また、経済面では総理がコメの問題でくろされたGATTの合意の実施という課題がある。また、政治面ではロシアの民主化努力への支援、かん境問題、エイズ、両国の政治改革に対する互いの支援等、多くの分野で協力関係にある。

貿易問題については、HONEST DISAGREEMENTは日米関係が強固で信頼できるものである

秘密指定解除

外交記録・情報公開室

極秘

ことの証拠であり、これが日米間の友好・信頼関係を損なうことにはならないと考える。昨ばん、総理のちよ書(注: TIME TO CHANGE IS NOW)を読んだが、総理が何を達成しようとしているのか、また如何なう障へきに直面しているのかがよく理解できた。貿易問題については、今後どうなるか自分には判らないが、この問題にどう対処するか話し合つていきたい。

率直に言つて、相違点を認めることが日米両国を結ぶきずなを損なうことになるとは考えない。総理も自分も共に今まで長期間放置されてきた困難な問題に取り組むという評判を確立している。貿易問題についてはオープンな形で取り扱つて行きたい。それが長期的に見て、日米関係を強化する証となると思う。

(総理) 同感である。包括協議については、政府調達、保険の分野では交渉がほとんどまとまるころまで進展していたが、数値目標という最後のかべをクリアすることができず残念である。しかし、このことによつて、日米関係全体がこわされることになつてはならない。その点では大統領と同意見である。

この2、30年の間、日米間ではその場をことするようなたまむしいるの決着を行い、最終的に「外庄」によつて日本が譲歩させられるというのが多くの人が考える一般的なパターンであつて、そこにお互いフラストレーションがまたつてきたことは事実である。大統領が言われたように、世界の中で大きな位置を占める新しい時代の日米関係のすがたは、言いたいことを言い、「合意できることは合意するし、合意できないことは合意できない」ということを率直に認めるという、成じゆくした大人関係になつていく必要がある。

いずれにせよ細川政権は国内改革をえい意推進し、官僚がてい抗する規制かんと行政改革も行つていく。

米国も財政あか字の削減等、難かしい問題に直面している。両国とも困難な解題に取り組んでいるのだから、包括協議も協力の精しんの下に引き続き話し合つて行きたい。

(クリントン) 第一に、日米両国は過去に不明りような合意により、くるしんできたという点に同意する。最初は日本が「外庄」によつて変化させられたという認識が日本国民の間にあるが、これは良くないことである。次に少し時間が経つと米国内において、日米間の貿易合意にもかかわらず、有害なトレンドが続いており、何ら変化はもたらされていないというパーセプションが出てくる。このように日米両国でやるべきことをやつていないではないかとう批判が生じ、両国政府とも国民の信頼を失つてしまうのである。

第二に、自分は米国のためだけに日本に対する要求をしているのではなく、諸外国のことも念頭においている。日本のためだけでなく、英国のためにもなる政策を推進している。2つの例を挙げたい。まず、日本の

秘密指定解除
外交記録・情報公開室

極秘

景気し激策に対して批判的になつたのは、1年限りの減税が世界経済のみならず、日本経済をし激するためにも十分ではないと懸念したからである。次に、日本市場へのアクセスの問題に関しても、われわれは米国のためだけの特別待遇は求めない。米国は常に、開放された市場と市場における競争を主張しているのである。

最後に貿易関係について何点か指摘したい。第一に規制緩和を始め、総理の追及されていることの多くは、日本経済を開放的にし、日米関係のために助けとなるものである。第二に、数値目標については、われわれはある目的をもつてこれを追及している。昨年7月の東京での合意の内容を見ると、6つの分野において進展を計測することとなつている。それぞれの分野で客観的基準が必要であるが、同時に、それぞれの分野で米国が努力をを行つているか、日本市場に適合するような価格と品質の製品を製造しているかといった事項を含め、他の要因によつても進展が判断されると考えている。しかし、進展を計測する方法がまつたくなければ、合意に達することはできない。第三に、包括協議の交渉継続に関しては、昨ばんハタ大臣とカウンター代表が朝4時まで交渉を行い、また、この会談の準備の為、今朝1時間以上にわたつて米側内部の会議を行つた結果、現時点で、われわれの立場は非常に離れており、協議するべきことはあまりないように自分には思える。日本側から新たなポイントがあるというのであれば、よろこんでおうかがいしたいが、さもなければわれわれは行きずまりに直面しているので、れい却期間 (PERIOD OF REFLECTION) を置くことが最善であると考え。

(続く)

Number: [TN: blacked out]

Primary: North American Affairs Bureau Director-General

Sent: United Nations, February 12, 1994, [TN: time blacked out]

Received: MOFA, February 13, 1994, [TN: time blacked out]

To: The Foreign Minister

From: Ambassador Kuriyama

Japan-United States Summit Meeting (Small Group Meeting) (1 of 2)

No. 1456 Secret Top Urgent

(Limited Distribution)

Divided telegram

On the 11th, from 11:35 in the morning to 1:10 in the afternoon, the Japan-United States Summit Meeting (small group meeting) took place in the Oval Office of the White House. A summary of its main points is as follows. (Attending from the other side: President Clinton, Vice President Gore, Secretary of State Christopher, National Security Advisor Lake, [TN: name blacked out] NSC [TN: part of title blacked out], and an interpreter ([TN: name blacked out]); attending from our side: Prime Minister Hosokawa, Foreign Minister [Hata], Deputy Minister for Foreign Affairs Fukuda, Deputy Minister for Foreign Affairs Matsuura, and an interpreter (Suzuki from First North America Division).)

(Prime Minister) Since this administration's inauguration half a year ago, we have been climbing one high mountain after another. I think that you have had the same experience. Some in my coalition government, worn out from climbing the mountains, would like to go hide away in a tunnel. In newspaper political cartoons, I am drawn in a pinch on the edge of a cliff. I am, so to say, a "cliff-hanger."

Mr. President, you successfully pulled off the triple play of the NAFTA [North American Free Trade Agreement], APEC [Asia-Pacific Economic Cooperation], and UR [Uruguay Round]. I have been promoting three major reforms - political, economic, and administrative - in the middle of fighting between the "conservative faction" seeking to preserve the old system and the "reform faction." I will continue with determination to promote reform.

Through political, economic, and political reform, I have aimed for a real "political restoration." Overcoming the resistance of the special-interest politicians and the bureaucrats on the construction issue, UR, and such was like walking a tight-rope, but I have achieved some degree of success.

Concerning economic stimulus measures, I hear that the United States sees it as insufficient, but our intention was to put together a substantial package. Rather than economic stimulus measures for the time being, it is something that we undertook as part of fundamental reform of the tax structure.

These reforms are "internal reforms." They are fundamentally different from the changes made in Japan to date under external pressure. However, these "internal reforms" have only just gotten under way. From this point forward, there will be a full-scale undertaking. I would like you to watch this with interest and support it where you can.

(Clinton) I feel strongly for what you are doing. This is not only for Japan. As an example of democracy, it is for all the world's countries. A problem for democratic countries is that when external threats disappear and interest turns inward, gaining popular support for change is difficult. Through my own experience, I think that, as it is in the United States, carrying out change in Japan is hard. Last summer, I had the budget reconciliation act passed by one vote in the House and Senate. At the time, the Democratic Party seemed made up of three different parties, so the situation was different for each vote.

I strongly support your political reform. We, too, are making efforts for similar reform in the United States and would like to have the legislation passed in Congress in the next four months.

US economic advisors are saying that Japan's economic stimulus measures are not large enough. I understand the pressure that you are under. Personally, I think that they are substantial. Based on the experience of the United States, or perhaps the situation is different in the case of Japan, but once you cut taxes, with the expectation that a tax increase will be carried out the next year, much of it goes into savings, not into consumption.

What I would like to talk about in this small group meeting is how to make sure that we are sending the right message to the world. We failed to come to an agreement on trade, but Japan and the United States have many common interests in the security, political, and economic fields. Somehow, we have to show to the people of the United States and Japan, and the world as well, that we are committed to the US-Japan relationship. Concerning the security field, I would like to talk about the issue of North Korea's development of nuclear weapons. Also, on the economic side is the task of implementing the GATT agreement, where you were having a hard time with the rice issue. In addition, on the political side, there are many areas of cooperative relations, such as in assistance for Russia's privatization efforts, environmental issues, AIDS, and mutual support for each country's political reform.

I think that honest disagreement on the trade issue is proof that the US-Japan relationship is strong and reliable, and it will not do for it to harm the relationship of friendship and trust between the United States and Japan. Yesterday evening, I read your book (note: *The Time To Act Is Now*). I now understand what you are trying to do and what kind of obstacles you are facing. I do not know what is going to happen in the future concerning the trade issue. I would like to talk about how to handle it.

Frankly speaking, I do not think that admitting our differences will hurt the ties that bind the United States and Japan. Both you and I have established a reputation for tackling difficult problems that have been long neglected until now. I would like to handle the trade issue openly. In the long term, I think that it will be a proof of strengthening the US-Japan relationship.

(Prime Minister) I agree. Concerning the Framework Talks, it is regrettable that we made progress to the point of nearly negotiating an agreement on government procurement and insurance but were unable to clear the final hurdle of numerical targets. However, relations between Japan and the United States in their entirety must not be broken on account of this. I am in agreement with you on that point.

Many people think that the general pattern for the past 20 or 30 years has been one of reaching ambiguous settlements between Japan and the United States to get by, with Japan being forced in the end under "external pressure" to make concessions. That there has been a build-up in mutual frustration because of that is a fact. As you have said, we need a mature, adult relationship. The form in this new era of the Japan-United States relationship, which occupies a major place in the world, is one of

saying what one wishes to say, of frankly admitting that “we will agree on things on which we can agree and will not agree on things on which we cannot agree.” In any case, my administration is earnestly promoting domestic reform and carrying out the deregulation and administrative reform that the bureaucracy opposes. The United States, too, is facing such difficult problems as reducing its fiscal deficit. Both our countries are tackling difficult issues, so I would like the Framework Talks to go forward with our continuing to talk to one another in the spirit of cooperation.

(Clinton) First, I agree that the United States and Japan have suffered in the past from unclear agreements. It is not good, that, first, there is among the Japanese people the perception that Japan has been changed according to “external pressure.” Next, after a while, there has emerged in the United States the perception that, despite trade agreements between the United States and Japan, harmful trends have continued and no changes have been brought about. In this way the criticism arises that the United States and Japan are not doing what they should be doing, and the governments of both countries lose the trust of their people.

Second, I am making requests to Japan not only for the sake of the United States but with various foreign countries in mind as well. I am promoting policies not only for the sake of Japan but for that of Britain as well. I would like to give two examples. First, there was criticism of Japan’s economic stimulus measures because of the concern that a tax cut limited to one year would be insufficient not only for stimulating the global economy but for the Japanese economy as well. Next, concerning the issue of access to the Japanese market as well, we are not asking for special treatment for the United States alone. The United States has always argued for open markets and market competition.

Last, I would like to point out several points regarding the trade relationship. First, many of the things that you are pursuing will make the Japanese economy open and help the US-Japan relationship. Second, concerning numerical targets, we are pursuing this for a certain purpose. Looking at the contents of the agreement in July last year in Tokyo, we are measuring progress in six fields. I think that objective standards are necessary in each of those fields. At the same time, I think that progress will be judged according to other factors as well, such as whether the United States is making efforts in each of those fields and is making products of a price and quality suitable to the Japanese market. However, we cannot reach an agreement if there is not any way of measuring progress. Third, regarding the continuing of negotiations in the Framework Talks, last night Foreign Minister Hata and United States Trade Representative Kantor conducted negotiations until four o’clock this morning. Also, to prepare for this meeting, we held a meeting on the US side for over an hour this morning. The result of all this is that, as of this time, our positions are extraordinarily far apart. It seems to me that there is nothing much to discuss. If the Japanese side has new points, then I would be happy to hear them. If not, then we are facing a deadlock, so I think that it would be best to have a period of reflection.

(continued)